

## リハビリテーション学(作業療法学)からのお知らせ

作業療法学専攻では、国際的な視野を持つ作業療法人材の育成を目指し、海外大学との交流や海外からの研修受け入れなど、さまざまな国際交流活動を行っています。今回は、その中から最近実施した3つの受け入れプログラムをご紹介します。

2026年1月、台湾の義守大学（I-Shou University）作業療学科の学生3名および教員1名を受け入れ、群馬県内の医療・地域ケア施設における見学研修を実施しました。参加者は、ぬまたとね総合在宅ケアセンターなどを訪問し、日本の作業療法実践や地域包括ケアについて理解を深めるとともに、本学の授業や学生交流を通して、台湾と日本の作業療法教育や医療制度の違いについて学びました。



前橋市役所前での記念撮影

2026年5月、ベトナムの地方自治体、病院の保健医療専門職を受け入れ、地域医療研修を実施しました。本研修は、障害者や高齢者、その家族介護者を支える地域包括的なケアモデルを学ぶことを目的として行われました。

2026年6月、モンゴル国立医科大学（MNUMS）作業療学科の学生4名と教員1名を受け入れ、短期見学実習を実施しました。学生たちは群馬大学医学部附属病院をはじめ、急性期病院、回復期病院、地域施設等を訪問し、日本の作業療法実践について学びました。また、本学学生との交流やディスカッションを通して、両国の作業療法教育や医療制度の違いについて理解を深めました。



群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科【看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学(理学療法学・作業療法学)】では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。また、これらの活動を進めるための組織として保健学研究科附属研究・教育センターが設置され、このセンター内には5つの推進室があります。今回はリハビリテーション学(作業療法学)からの報告になります。私たちの活動を**保健学科公式インスタグラム@gunmahealth**も併せてご覧いただければ幸いです。

